

令和6年10月16日
稚内開発建設部

ハマニンニクを植えて砂の飛散を抑えます

～抜海漁港の海浜地で地域と協働して植栽活動を行います～

抜海漁港の海浜地において、地域住民、漁業者、関係機関の皆様と協働した取組として、自生植物の移植を下記のとおり行いますので、お知らせします。

抜海漁港及び周辺地域では、強風で砂浜から飛散した砂が船揚場や道路に堆積し、漁業活動や住民生活の支障となっています。

このため、抜海漁港南側の海浜地に「ハマニンニク」を移植することで砂の飛散を抑制し、周辺環境への被害の軽減を図ります。

この取組は、平成20年度から地域住民、漁業者、関係機関の皆様のご協力により行っています。

記

- 1 日 時 令和6年10月21日（月） 14：00～ 1時間程度
- 2 場 所 抜海漁港 南側海浜地
- 3 その他 詳細は別紙のとおり

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部

築港課 上席専門官 桑名 智幸（電話 0162-33-1162）

稚内港湾事務所 第2工務課長 黒川 忍（電話 0162-73-0831）

稚内開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/wk/>

稚内開発建設部公式X（旧 Twitter）アカウント https://x.com/mlit_hkd_wk



【地域の方々との協働】

抜海漁港「自生植物移植による飛砂防止」の実施について

■目的等

抜海漁港及び周辺地域では、強風で海浜地から飛散した砂(飛砂)が船揚場や道路に堆積し、漁業活動や住民生活の支障となっています。飛砂を抑制するため、海浜地に自生する「ハマニンニク※」を移植させることにより、周辺環境への被害の軽減を図ります。

平成20年から15年以上にわたる継続した取組により、地元からは、少しずつではありますが街中に砂が飛ばなくなってきたとの声がある等、効果も徐々に現れつつあります。

※ハマニンニク (Leymus mollis)

イネ科の多年草で別名:テンキグサといいます。

地下茎で繁殖する飛砂の堆積地に適した海浜植物で、抜海漁港周辺に自生しています。

■実施内容

○ハマニンニクの移植を行います。

抜海漁港周辺に自生しているハマニンニクをあらかじめ採取してありますので、参加者の皆様には、植生の薄い砂浜前面部への移植をお手伝いいただきます。

○移植予定株数 約500株(面積75㎡、15m×5m、50cmピッチ)

■日 時

○令和6年10月21日(月) 14:00～ 1時間程度
(荒天・雨天の場合は、順延する場合があります)

■集合場所

○抜海漁港 船揚場(南側)

■昨年度の様子



有志一同が集まっての植栽作業状況

■参加者：例年 20～30 名程度（令和 5 年度は 26 名が参加）

○抜海地域マリンビジョン協議会関係者

抜海町内会、稚内漁業協同組合、稚内市、宗谷総合振興局、
稚内開発建設部、同部稚内港湾事務所

○抜海漁港工事受注者

■集合場所と植栽場所



○これまでの移植により、陸側における植栽の定着が確認できたため、今年度から植生の薄い海側に場所を移し、植栽効果を高めています。

■R5 年度の植栽状況

